

新版 日文 図画工作

5・6上

# 年間指導計画作成資料

■題材別カリキュラム

平成

23-26年度

## ■ 題材別カリキュラムについて

この資料は、年間指導計画の作成に必要な内容を記載しています。

地域や学校の実情に合わせた年間指導計画のご作成にお役立て下さい。

① ページ 題材名 (配当時間) 項目	② 【共通事項】 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			⑥ 中学校への接続 (高学年のみ設定)	⑦ 材料や用具
	③ 学習のめあて 題材の目標	④ 題材の評価規準の例 (◎は A と評価する例)	⑤ 主な学習内容		
p.16 気持ちを 表す形や色  (2～6)  絵に表す	<b>学習のめあて:</b> 自分の気持ちを形や色で表すことを楽しみ、こう果的に表すよう試みる。  <b>題材の目標:</b> 様々な気持ちや感じを形や色で表すことを試み、材料や用具の使い方を工夫しながら自分の方法でかく。	(関)言葉ではなく、形や色で気持ちや感じを表すことに興味をもって取り組もうとしている。 (想)気持ちや感じが表示できるように、形や色をいろいろ試したり、表し方を考えたりしている。 (技)気持ちや感じに合わせて線の形や色などを考え、試行錯誤しながら表し方を工夫している。 (鑑)自他の作品を見て、表された気持ちや感じを想像し、お互いのよさを感じ取っている。  ◎(技)気持ちや感じがより表れるように、紙の種類や形、線の形や強弱、色味や濃淡など、表し方を工夫している。 ◎(鑑)自他の作品を見て、形や色、表し方の工夫から気持ちや感じを想像し、お互いの表現の意図をとらえている。	○線だけで気持ちや感じを表すことができることを知り、試みる。 ○色でも気持ちや感じを表すことができることを知り、試みる。 ○表したい気持ちや感じの形や色を考えたり、表し方を工夫したりしてかく。 ○自分や友人の作品を見て、表し方の工夫やよさを感じ取るとともに、形や色から気持ちを想像して読み取る。	心情や印象を表現することは高学年らしい高度な内容であり、3・4下「すてきなペーパーショップ」での多様な表現方法などを踏まえ、本題材、さらに5・6下「心の中の美術館」へつながっていく。中学校では、第2・3学年「A表現(1)ア」における、感情などの心の世界を基に主題を生み出す内容などに関連するものである。	<b>教師:</b> 画用紙、段ボール紙 など  <b>児童:</b> 鉛筆、クレヨン・パス、水彩用具一式 など

題材別カリキュラム表は下記の内容で構成されています。

① ページ／題材名／配当時間／項目

- ・各題材の教科書掲載ページ、題材名などを示しています。
- ・配当時間は、学校や児童の実情に合わせて柔軟な取り扱いができるよう、基本的に幅をもたせて設定しています。
- ・項目は、学習指導要領に示された「造形遊びをする」「絵に表す」「立体に表す」「工作に表す」「鑑賞する」に該当する内容を示しています。

② 〔共通事項〕

- ・ここに示された当該学年の〔共通事項〕を踏まえて、③学習のめあて／題材の目標、④題材の評価規準の例／(◎は A と評価する例)、⑤主な学習内容を設定しました。

③ 学習のめあて／題材の目標

- ・各題材で児童が身に付けたい力を示しています。「学習のめあて」は教科書に記載されている児童向けの文言です。

④ 題材の評価規準の例／(◎は A と評価する例)

- ・各題材の観点別評価規準の例を示しています。「おおむね満足できる」状況(B)について記載しています。
- ・◎は、その題材で特に大切な評価の観点について「十分満足できる」(A)の例を記載しています。
- ・評価規準例の略号は下記のとおりです。
  - (関): 造形への関心・意欲・態度
  - (想): 発想や構想の能力
  - (技): 創造的な技能
  - (鑑): 鑑賞の能力
- ・評価については、一つの題材だけでなく、複数の題材のまとまりの中で4観点をバランスよく押さえていくことが大切です。

以下に中央教育審議会・初等中等教育分科会・教育課程部『児童生徒の学習評価の在り方について(報告)』(平成22年3月24日)に関して、文部科学省のホームページより関連部分を転載しましたのでご参照下さい。

詳細は以下のサイトをご覧ください。

( [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm) )

(評価時期)

○授業改善のための評価は日常的に行われることが重要である。一方で、指導後の児童生徒の状況を記録するための評価を行う際には、単元等ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価することが求められる(※7)。

「関心・意欲・態度」については、表面的な状況のみに着目することにならないよう留意するとともに、教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要である。

(※7)平成20年1月17日答申においては「1単位時間の授業において評価の4観点(関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解)のすべてを評価しようとして、授業冒頭に「進んで取り組んでいるかどうか」をチェックし、チェック終了後授業に入ったりするなど評価のための評価となっている不適切な事例も見られる」との指摘がある。

⑤ 主な学習内容

- ・児童の活動を中心として授業の流れを追って示しています。

⑥ 中学校への接続(高学年のみ設定)

- ・小学校と中学校の9年間で一貫して、資質や能力を育成する観点から、低、中学年からの積み重ねを基に、中学校学習指導要領解説美術編を踏まえ、高学年と中学校の活動内容とのつながりを示しています。

⑦ 材料や用具

- ・授業で必要な主な材料や用具について教師や児童が準備するものを分けて示しています。「教師・児童」と表記したものは、教師と児童それぞれが準備するものです。

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	【共通事項】 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎はAと評価する例)	主な学習内容		
p.6・7 風が見えたら (2～6)  造形遊びをする	<p><b>学習のめあて:</b> 場所の特ちょうからつくりたいものを考え、場所に合った材料を使って活動する。</p> <p><b>題材の目標:</b> 風が吹く場所を見つけ、場所の特徴に合った材料や用具を考えて、風の動きを可視化するものをつくる。</p>	<p>(関)身近な材料や風が吹く場所の特徴を生かし、風を可視化する活動に取り組もうとしている。</p> <p>(想)風を可視化する方法を思い付き、材料の形や色、動きの感じなどを基に場所の構成を考えている。</p> <p>(技)風が吹く場所の特徴を生かしながら、材料の使い方を工夫している。</p> <p>(鑑)風が見える様子を楽しみながら、感じたことを話したり、場所の雰囲気の変化をとらえたりしている。</p> <p>◎(技)風の吹く方向や強さなどを考えながら、材料の切り方やつなぎ方、動く仕組みを工夫している。</p>	<p>○風を感じる場所を探し、その場所の特徴、風の吹く様子などをとらえ、風を可視化する方法を考える。</p> <p>○身近な材料を切ったり、組み合わせたりしながら、風を可視化するものを工夫してつくる。</p> <p>○場所の雰囲気を楽しくしたり、きれいに見えるように考えたりしながら飾る。</p> <p>○風で動く材料の形や色の変化の面白さや、場所の雰囲気の変化について話し合う。</p>	<p>場所の特徴をとらえ、風を可視化するという活動は、美術第1学年「A表現(1)ア」における、対象に対して感性を豊かに働かせる内容や、「A表現(2)ア」における、条件などを基に美的感覚を働かせて構成を考える内容などに関連するものである。</p>	<p><b>教師・児童:</b>風を可視化するための身近材、セロハンテープ など</p> <p><b>教師:</b>動く仕組みに使いそうな材料、カッターナイフ、金づち、釘、ペンチ など</p> <p><b>児童:</b>はさみ など</p>
p.8・9 ねん土の板から (2)  立体に表す	<p><b>学習のめあて:</b> 板の形にしたねん土を変形させることから想ぞうを広げて、空想の生き物をつくる。</p> <p><b>題材の目標:</b> 粘土の板をつくり、曲げたりねじったりして生まれた形から、想像力を働かせて思い付いた生き物を立体に表す。</p>	<p>(関)変形させた粘土の板から思い付いた生き物を立体に表す活動に取り組もうとしている。</p> <p>(想)粘土の板を曲げたりねじったりしてできる形から、つくりたい生き物を思い付いている。</p> <p>(技)粘土の板の厚さや曲げ方、部品の付け方、へらなどの用具の使い方を工夫している。</p> <p>(鑑)友人の作品の表し方の工夫をとらえている。</p> <p>◎(技)自分が表したい立体的な形になるよう、粘土の板の厚さや起こし方、土台の使い方などを工夫している。</p> <p>◎(鑑)友人の作品の工夫を自分の表現の参考にし、表し方の特徴やよさを感じ取っている。</p>	<p>○粘土を板状にして形を切り抜いたり、模様を付けたりする。</p> <p>○粘土の板を起こしたり曲げたりして、立体的な形をつくりながら想像を広げ、思い付いた生き物をつくる。</p> <p>○全体のイメージに合わせて、部品をつくり、接合する。</p> <p>○友人の表し方を参考にしながら加工したり接合したりする。</p> <p>○どんな生き物を表したか、友人と紹介し合う。</p>	<p>板づくりの技法や、土台を使ってふくらみを持たせる方法の習得は、美術第1学年「A表現(3)アイ」に示される、意図に応じた材料や用具の生かし方、制作の見通しをもつことなどに結び付く。</p>	<p><b>教師・児童:</b>粘土に模様を付けるための身近材、雑巾 など</p> <p><b>教師:</b>土粘土(一人に2～3kg)粘土板、かきべら、のし棒、たたら板、ピアノ線(切り取り用) など</p> <p><b>児童:</b>粘土べら など</p>

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	【共通事項】 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎はAと評価する例)	主な学習内容		
p.10・11 感じたことを 伝えたい  (2～8)  絵に表す	<p><b>学習のめあて:</b> 身の回りを改めて見つめ、感じたことが伝わるようにくふうして絵に表す。</p> <p><b>題材の目標:</b> 自分が感じた情景のよさが伝わるように、材料や用具の特徴を生かして使ったり、表現方法を工夫したりして表す。</p>	<p>(関)自分の身の回りから表したいことを見付け、それを絵に表して伝えることに取り組もうとしている。</p> <p>(想)表したいことが伝わるように、形や色、構図などを考えている。</p> <p>(技)表したいことが伝わるように、材料や用具の特徴を生かし、表現方法、構図などを工夫している。</p> <p>(鑑)感じ方や表現の仕方について友人と話し合い、自他の作品のよさや表現の工夫を感じ取っている。</p> <p>◎(想)自分が感じた情景にふさわしい表し方になるように、形や色、紙の種類や大きさなどを考えている。</p> <p>◎(技)自分の表したいことが明確に伝わるよう、様々な構図や表現方法を試すなどして、自分のイメージに合った表現を工夫している。</p>	<p>○自分の生活や身の回りを見つめて、感じたり伝えたい情景を思い浮かべる。</p> <p>○感じたことや伝えたいことを基に風景を切り取ったり、表し方を構想したりして絵に表す。</p> <p>○表したいことに合った表現になるよう、材料や用具の特徴を生かしたり、様々な表現方法を組み合わせたりして工夫する。</p> <p>○自他の作品を鑑賞し、友人と感じ方や表現について話し合い、見方や感じ方を広げようとする。</p>	<p>自分の思いに合わせて構図を考えたり、想像を加えたりする内容は、美術第1学年「A表現(1)アイ」などにつながるものである。対象のよさを感じ主題を生み出すこと、全体と部分の関係を考え創造的な構成を生み出すことなどは、小学校における表現活動の積み重ねから生まれるものである。</p>	<p><b>教師:</b>画用紙、和紙、新聞紙、色画用紙 など</p> <p><b>児童:</b>サインペン、クレヨン・パス、水彩用具一式、墨など</p>
p.12・13 板を切りぬいて/ みんなでドミノたおし  (4～6)  工作に表す	<p><b>学習のめあて:</b> 電動糸のこぎりを使って、楽しく遊んだりかざったりするものをつくる。</p> <p><b>題材の目標:</b> 電動糸のこぎりを使いながら1枚の板を切り抜き、ドミノたおしとパズル遊びができる楽しい作品をつくる。</p>	<p>(関)ドミノたおしができるパズルを、1枚の板材を生かして楽しみながらつくる活動に取り組もうとしている。</p> <p>(想)ドミノのピースとして一つ一つが立つ面白い形を思い付き、それぞれの色を考えている。</p> <p>(技)安全に電動糸のこぎりを使いながら、板材の切り方を工夫している。</p> <p>(鑑)自分や友人がつくった作品でドミノたおしやパズル遊びをしながら、互いの表現のよさを感じ取っている。</p> <p>◎(想)切り抜いた一つ一つのピースと、組み立てたパズル全体の、両方の形や色のよさや面白さを考えている。</p> <p>◎(技)無駄のない木取りをし、安全に電動糸のこぎりを使って板を切り抜き、自分なりの思いを工夫して表している。</p>	<p>○電動糸のこぎりの安全な使い方を確認する。</p> <p>○ドミノたおしやパズル遊びができるような、楽しい形や色の絵を考え、板材に木取りをする。</p> <p>○電動糸のこぎりて板材を切断する。</p> <p>○切断したピースを着色する。</p> <p>○友人と一緒に、ドミノたおしやパズル遊びをする。</p>	<p>糸のこぎりは、小学校5・6学年で取り扱う用具として示されている。中学校美術では特に第1学年「A表現(3)アイ」にかかわり、発想や構想をしたことなどを基に表現するために、小学校での習得が必要である。また技術科でも使用する用具である。</p>	<p><b>教師:</b>厚さ1cm程度の板材、電動糸のこぎり、紙やすり、画用紙 など</p> <p><b>児童:</b>水彩用具一式 など</p>

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	〔共通事項〕 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎はAと評価する例)	主な学習内容		
p.12・13 板を切りぬいて／ ゆらゆらモビール  (4～6) 工作に表す	<b>学習のめあて:</b> 電動糸のこぎりを使って、楽しく遊んだりかざったりするものをつくる。  <b>題材の目標:</b> 電動糸のこぎりを使いながら1枚の板を切り抜き、楽しいモビールをつくる。	(関)風で揺れるモビールを、1枚の板材を生かして楽しみながらつくる活動に取り組もうとしている。 (想)揺れる動きを意識して、モビールのテーマや、形や色を思い付いている。 (技)安全に電動糸のこぎりを使いながら、板材の切り方を工夫している。 (鑑)自分や友人がつくった作品を飾り、互いの表現のよさや美しさを感じ取っている。  ◎(想)モビール全体のバランスを見ながら、ピースの形や色、ひもの長さや取り付け位置などを考えている。 ◎(技)無駄のない木取りをし、安全に電動糸のこぎりを使って板を切り抜き、自分なりの思いを工夫して表している。	○電動糸のこぎりの安全な使い方を確認する。 ○風で揺れると楽しい形や色の絵を考え、板材に木取りをする。 ○電動糸のこぎりで板材を切断する。 ○切断したピースを着色する。 ○全体のバランスを見ながらピースを糸でつないでモビールをつくり、動きを楽しむ。	糸のこぎりは、小学校5・6学年で取り扱う用具として示されている。中学校美術では特に第1学年「A表現(3)アイ」にかかわり、発想や構想をしたことなどを基に表現するために、小学校での習得が必要である。また技術科でも使用する用具である。	<b>教師:</b> 厚さ0.5～1cm程度の板材、電動糸のこぎり、きり、糸、紙やすり、画用紙 など  <b>児童:</b> 水彩用具一式 など
p.12・13 板を切りぬいて／ ゆかいなパズル  (4～6) 工作に表す	<b>学習のめあて:</b> 電動糸のこぎりを使って、楽しく遊んだりかざったりするものをつくる。  <b>題材の目標:</b> 電動糸のこぎりを使いながら1枚の板を切り抜き、楽しいパズルをつくる。	(関)1枚の板材を生かして、楽しみながらパズルをつくる活動に取り組もうとしている。 (想)切り抜く形を思い付き、形や色の面白さのあるパズルを考えている。 (技)安全に電動糸のこぎりを使いながら、板材の切り方を工夫している。 (鑑)自分や友人がつくったパズルで遊びながら、互いの表現のよさを感じ取っている。  ◎(想)切り抜いた一つ一つのピースと、組み立てたパズル全体の、両方の形や色のよさや面白さを考えている。 ◎(技)無駄のない木取りをし、安全に電動糸のこぎりを使って板を切り抜き、自分なりの思いを工夫して表している。	○電動糸のこぎりの安全な使い方を確認する。 ○楽しい形や色のパズルの絵を考え、板材に木取りをする。 ○電動糸のこぎりで板材を切断する。 ○切断したピースを着色する。 ○友人と一緒に、パズルで遊ぶ。	糸のこぎりは、小学校5・6学年で取り扱う用具として示されている。中学校美術では特に第1学年「A表現(3)アイ」にかかわり、発想や構想をしたことなどを基に表現するために、小学校での習得が必要である。また技術科でも使用する用具である。	<b>教師:</b> 厚さ1cm程度の板材、電動糸のこぎり、きり、紙やすり、画用紙 など  <b>児童:</b> 水彩用具一式 など

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	〔共通事項〕 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎は A と評価する例)	主な学習内容		
p.14 え？名前で 絵  (2～4)  絵に表す	<p><b>学習のめあて:</b> 名前の文字をもとに発想を広げ、形や色をくふうして絵に表す。</p> <p><b>題材の目標:</b> 文字の形を基にして様々に変形させたり色で表したりしながら、自分の名前を生かして絵に表す。</p>	<p>(関)文字を様々に変形させたり色を使ったりしながら、絵に表していくことに興味をもち、取り組もうとしている。</p> <p>(想)名前の文字を基に絵に表すために、アイデアスケッチをしながら文字の形や色を考えている。</p> <p>(技)文字を変形させたり、色の組合せを考えたりしながら、表し方を工夫している。</p> <p>(鑑)自他の作品の文字の形、色のよさや美しさ、面白さを感じ取っている。</p> <p>◎(想)様々な種類の文字について、何通りもの変形や、色の組合せなどを考えている。</p> <p>◎(技)文字の形や色が効果的に見えるように、自分のイメージに合った描画材を選び、表し方を工夫している。</p>	<p>○名前の文字をアイデアスケッチし、試行錯誤しながら文字の形や色の組合せについて考え、表す。</p> <p>○名前の文字の形から、それに合う色を考えたり、色の組合せを試したりする。</p> <p>○自他の作品から、文字の変形の工夫や色のよさなどを感じ取る。</p>	<p>名前を基に想像を広げて表すという内容は、美術第1学年「A表現(1)(2)」などに関連し、絵やデザインに幅広くつながることが考えられる。図画工作では「絵に表す」に位置付けているが、デザインの要素も多く含んだ題材であり、児童の自由な発想を促したい。</p>	<p><b>教師:</b>画用紙、コンテ など</p> <p><b>児童:</b>サインペン、クレヨン・パス、水彩用具一式 など</p>
p.15 お気に入り 研究所  (1～4)  鑑賞する	<p><b>学習のめあて:</b> 毎日の暮らしの中で使用するもののよさに気づく。</p> <p><b>題材の目標:</b> 自分のお気に入りのものを見つけて、理由を考えて発表し、生活の中で使うもののよさや美しさに気付く。</p>	<p>(関)自分や友人のお気に入りのものを見ることを楽しもうとしている。</p> <p>(想)お気に入りのものの紹介の仕方や見せ方を考えている。</p> <p>(鑑)暮らしの中にある作品の形や色の特徴などをとらえている。</p> <p>◎(関)自分や友人のお気に入りのもののよさや美しさを味わおうとしている。</p> <p>◎(鑑)暮らしの中にある作品の形や色の特徴、材質感の違い、使われ方などをとらえている。</p>	<p>○お気に入りのものを家から持ってくる。</p> <p>○気に入っている理由を考えてワークシートにまとめる。</p> <p>○気に入っているものと、その理由を紹介し合う。</p> <p>○友人の意見や教科書を参考にし、違った視点からお気に入りのものを見直してみる。</p> <p>○お気に入りのものが素敵に見えるように見せ方を工夫し、説明カードを添えて展示会を開く。</p>	<p>特に美術第1学年「B鑑賞(1)ア」における、身の回りにある様々な造形の形や色彩などからよさや美しさを感じ取り味わう活動に結び付く内容である。お気に入りの理由を考え紹介し合うことは、中学校美術において、ものの見方や感じ方を広げることや、自分の価値意識をもって批評し合うことにもつながっていく。</p>	<p><b>教師:</b>ワークシート、説明カード など</p> <p><b>児童:</b>自分のお気に入りのもの など</p>

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	〔共通事項〕 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎はAと評価する例)	主な学習内容		
p.16 気持ちを 表す形や色  (2～6)  絵に表す	<b>学習のめあて:</b> 自分の気持ちを形や色で表すことを楽しみ、こう果的に表すよう試みる。  <b>題材の目標:</b> 様々な気持ちや感じを形や色で表すことを試み、材料や用具の使い方を工夫しながら自分の方法でかく。	(関)言葉ではなく、形や色で気持ちや感じを表すことに興味をもって取り組もうとしている。 (想)気持ちや感じを表せるように、形や色をいろいろ試したり、表し方を考えたりしている。 (技)気持ちや感じに合わせて線の形や色などを考え、試行錯誤しながら表し方を工夫している。 (鑑)自他の作品を見て、表された気持ちや感じを想像し、お互いのよさを感じ取っている。  ◎(技)気持ちや感じがより表れるように、紙の種類や形、線の形や強弱、色味や濃淡など、表し方を工夫している。 ◎(鑑)自他の作品を見て、形や色、表し方の工夫から気持ちや感じを想像し、お互いの表現の意図をとらえている。	○線だけで気持ちや感じを表すことができることを知り、試みる。 ○色でも気持ちや感じを表すことができることを知り、試みる。 ○表したい気持ちや感じの形や色を考えたり、表し方を工夫したりしてかく。 ○自分や友人の作品を見て、表し方の工夫やよさを感じ取るとともに、形や色から気持ちを想像して読み取る。	心情や印象を表現することは高学年らしい高度な内容であり、3・4下「すてきなペーパーショップ」での多様な表現方法などを踏まえ、本題材、さらに5・6下「心の中の美術館」へつながっていく。中学校では、第2・3学年「A表現(1)ア」における、感情などの心の世界を基に主題を生み出す内容などに関連するものである。	<b>教師:</b> 画用紙、段ボール紙 など  <b>児童:</b> 鉛筆、クレヨン・パス、水彩用具一式 など
p.17 タワーをた てよう  (4～6)  立体を表す	<b>学習のめあて:</b> アルミはり金の曲げ方や立たせ方をくふうして、美しいタワーをつくる。  <b>題材の目標:</b> アルミ針金の特性を生かし、美しさやバランスを考えた立て方や装飾を工夫しながら、思い描いたタワーをつくる。	(関)アルミ針金を使ってタワーをつくることに取り組もうとしている。 (想)アルミ針金を曲げたり、束ねて立てたりしながら自分のイメージに合う形を考えている。 (技)ペンチを正しく安全に使い、アルミ針金の曲げ方や接合を工夫している。 (鑑)自他の作品を鑑賞し、立て方や装飾の工夫を感じ取っている。  ◎(技)ペンチの使い方に慣れ、アルミ針金の特性を生かし、様々な立て方や装飾を試み、自分の思いに合った形になるよう工夫している。 ◎(鑑)アルミ針金の材質の特徴や、線で構成されたタワーの美しさを感じ取っている。	○アルミ針金を曲げたり束ねたり絡めたりしていろいろな立て方を試す。 ○アルミ針金の特徴を生かした立て方を基に思い付いたタワーを構想してつくる。 ○つくりながら思い付いたアイデアを生かして形を整えたり装飾を加えたりする。 ○タワーに名前を付け、友人と見合ったりしながら、アルミ針金の特徴を生かした表現やタワーの面白さ、美しさについて話し合う。	特に美術第1学年「A表現(1)イ」に記載されている、全体と部分とのバランス、量感、空間性を考えるといった内容につながる題材である。また針金は、小学校5・6学年で取り扱う材料であり、同時にペンチについても扱うため、第1学年「A表現(3)アイ」における技能や、技術科などにもつながっている。	<b>教師・児童:</b> ビーズやビー玉などの装飾材 など  <b>教師:</b> アルミ針金、ペンチ、ラジオペンチ、化学接着剤 など

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	〔共通事項〕 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎は A と評価する例)	主な学習内容		
p.18・19 楽しく美しく 伝えよう／ プレートで 表す  (4～8)  工作に表す	<b>学習のめあて:</b> 伝えたいことの内容に 合わせ、表現方法をく ふうして掲示物をつく る。  <b>題材の目標:</b> 使う場所の感じ、自分 の願いや用途などを考 え、形や色、身近な材 料や用具の特徴を生か してプレートをつくる。	(関)人に伝えたい内容を表すプレートをつくることに関心をもち、自分の思いや用途などを考えて取り組もうとしている。 (想)場所や用途から思い付いたりしながら、形や色、材料など表し方を考えている。 (技)表したい感じや用途に合わせて、プレートの表し方を工夫している。 (鑑)友人の作品の意図を考えたり、様々な表し方を見てその特徴をとらえたりしている。  ◎(想)表したい内容の特徴を踏まえ、自分や身近な人の思いが効果的に伝わる形や色、表し方などを考えている。 ◎(技)材料や用具に関するこれまでの経験や技能を取り入れ、電動糸のこぎりを使ったり、他の材料を組み合わせたりするなど工夫している。	○プレートを付ける場所や見る人の気持ちを考え、プレートの形、絵や文字の形や色をアイデアスケッチに表す。店のプレートの場合は店の人の思いを聞いたり、相談したりする。 ○自分が考えた材料で、プレートの形をつくる。 ○部品や装飾材を付けたり、着色したりして、思いに合ったプレートになるよう工夫する。 ○できたプレートを見せ合ったり取り付けたったりして、表した意図や表し方の特徴などについて友人と話し合う。店のプレートなどをつくった場合は、店の人に感想を聞く。	伝えたい内容を効果的に表す活動は、美術第1学年「A表現(2)イ」などに関連している。伝える目的や条件を基に、見る人の立場や気持ちを尊重するためには、他者を意識し思いやる小学校からの表現活動の積み重ねが必要と考えられる。	<b>教師:</b> 板材、角材、紙粘土、のこぎり、電動糸のこぎり、釘、金づち、木ねじ、ドライバー、きり、針金、木工用接着剤、共同絵の具、画用紙など  <b>児童:</b> 水彩用具一式、自分の活動に必要な身辺材 など
p.18・19 楽しく美しく 伝えよう／ ポスターで 表す  (4～8)  工作に表す	<b>学習のめあて:</b> 伝えたいことの内容に 合わせ、表現方法をく ふうして掲示物をつく る。  <b>題材の目標:</b> 形や色の組合せや構成 を工夫して、社会や学 校、住んでいる町につ いて関心のあること、感 じたことや考えたことを ポスターに表す。	(関)人に伝えたい内容を表すポスターをつくることに関心をもち、自分の思いや用途などを考えて取り組もうとしている。 (想)自分の思いが伝わるような絵と言葉の組合せを考えている。 (技)表したい感じや用途に合わせて、ポスターの表し方を工夫している。 (鑑)友人の作品の意図を考えたり、様々な表し方を見て、その特徴について話し合ったりして、よさを感じ取っている。  ◎(想)表したい内容の特徴を踏まえ、自分の思いが効果的に伝わる絵と言葉の形や色、表し方などを考えている。 ◎(技)材料や用具に関するこれまでの経験や技能を取り入れ、画面の構成や描画材の使い方、材料の組合せなどを工夫している。	○ポスターに表したいことについて、形や色、イメージ、言葉などを考え、アイデアスケッチに表す。 ○表すものそれぞれの形や色、大きさなどの組合せや構成の美しさを考えて表す。その際、コラージュなどの方法を取り入れてもよい。 ○できたポスターを貼りたい場所に掲示したり、友人の作品と並べて見たりして、表した意図や表し方の特徴などについて話し合う。	伝えたい内容を効果的に表す活動は、美術第1学年「A表現(2)イ」などに関連している。伝える目的や条件を基に、見る人の立場や気持ちを尊重するためには、他者を意識し思いやる小学校からの表現活動の積み重ねが必要と考えられる。	<b>教師・児童:</b> 絵や文字の参考となる本や雑誌 など  <b>教師:</b> 画用紙 色紙 など  <b>児童:</b> 水彩用具一式、はさみ、のり、自分の活動に必要な身辺材 など

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	〔共通事項〕 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎は A と評価する例)	主な学習内容		
p.20 土から始めよう  (4～6)  絵に表す	<b>学習のめあて:</b> 土の感じよくや色から発想を広げて絵に表す。  <b>題材の目標:</b> 土の質感や色の感じなどの特性を楽しみながらイメージを広げ、土を絵の具にして、工夫しながら表す。	(関)土の感触を味わいながら、土の絵の具で表すことに取り組もうとしている。 (想)土とかかわる中で表したいことを見付け、土で表したいことを思い付いている。 (技)自分の表したいことに合わせて、手や用具の使い方を工夫して表している。 (鑑)友人や自分の表し方の違いや、土を使ったよさを感じ取ろうとしている。  ◎(想)土の質感や色の特徴に気付き、それらを生かした表現を考えている。 ◎(技)土の特徴を生かし、画面に厚みを出したり、土に加える水の量を変えたりするなど、自分の表現に適した方法を工夫して表している。	○校庭や花壇などから様々な色の土を集める。 ○集めた土に洗濯のりを混ぜて絵の具をつくり、画面をつくったり、絵をかいたりする。 ○筆や粘土べら、手などで自分なりの表し方を工夫する。 ○絵の具やコンテでかき足したり、土に絵の具を混ぜたりして自分の思いに合った方法で表す。 ○自分の作品に合った題名を付ける。 ○自分や友人の作品をやさしく触ったり見たりしながら、表し方の違いや、土を使った表現のよさや特徴を話し合う。	身近な土にも様々な色があり、描画材としても扱えることは、児童にとって新たな発見であると思われる。 特に中学校各学年の「A表現(3)ア」にある材料の生かし方、新たな表現方法の工夫といった点につながり、描画材という概念を広げる題材となっている。	<b>教師:</b> 画用紙、黄ボール紙、段ボール紙、土粘土、コンテ、洗濯のり、シヤベル など  <b>児童:</b> 学校内で採取した土、水彩用具一式、粘土べら など
p.21 ぬのから生まれた形  (2～6)  立体に表す	<b>学習のめあて:</b> やわらかなぬののあつかい方をくふうして、つくりたい形を立体に表す。  <b>題材の目標:</b> 布の特性を生かし、しばり方や組合せ方を試しながら、つくりたい形を立体に表す。	(関)布を使って思い付いた形をつくる活動に取り組もうとしている。 (想)布を変形させることによってできた形や色の組合せから、表したいことを思い付いている。 (技)自分のイメージに合わせて、布のしばり方や結び方を工夫している。 (鑑)友人と作品を見せ合い、布から生まれる形のよさや面白さをとらえている。  ◎(技)布のもつ形や色などを生かして、いろいろな方向から見ながら、しばる位置やしばり方の強さなどを工夫している。 ◎(鑑)友人と作品を見せ合い、布による表現の特徴や、形の違い、加工の工夫などをとらえている。	○着られなくなった洋服や、使わなくなった布を持ち寄る。 ○新聞紙を洋服などに詰めて形をつくる。 ○輪ゴムやモールなどを使ってしばったり、布を裂いたり切り込みを入れたりして形をつくる。 ○できてきた形から、さらにイメージをふくらませ、付け足したり飾りを付けたりしてつくる。 ○できた作品に名前を付けたり、友人と話し合ったりしてよさを見付け合う。	特に美術第1学年「A表現(1)イ」に記載されている、全体と部分のバランス、量感といったことにつながる題材である。平面的な袋から立体に表す題材は低学年でも設けているが、高学年では布の質感を生かし、全体のバランスを考えながら立体化を試みたい。	<b>教師・児童:</b> 着られなくなった洋服やくつ下・はぎれなどの布、新聞紙、輪ゴム、モール、ひも、リボン、装飾材 など  <b>教師:</b> 化学接着剤 など  <b>児童:</b> サインペン、はさみ など

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	【共通事項】 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎は A と評価する例)	主な学習内容		
p.22・23 アレっ？ コレ、ナニ？ ／ 身近なものを大きく  (4～8)  造形遊びをする	<b>学習のめあて：</b> 場所との関係を考えながら、意外性のあるものをつくる。  <b>題材の目標：</b> 身近な場所に、本物そっくりの巨大なものをつくって置くことで、その風景を意外性のある楽しい世界につくり変える。	(関)身近にあるものを、そっくりに大きくつくることに取り組もうとしている。 (想)巨大につくって置くと面白そうな身近なものについて、形や色、大きさなどを考えている。 (技)効果的な形や色、大きさになるよう段ボールなどの材料の扱い方、つなぎ方、色の塗り方などを工夫している。 (鑑)自他の表現の意図や特徴、意外性などをとらえ、面白さやよさを感じ取っている。  ◎(関)身近にあるものをそっくりに大きくつくり、意外な場所に置くことを楽しもうとしている。 ◎(想)どのようなもの大きさが変わると意外性や楽しさを感じるか、場所とものとの関係について考えている。	○教科書の参考作品等を見て、身近にあるものが大きくなると、意外性や楽しさを感じるについて話し合う。 ○校舎内、校庭などを見て回り、何を巨大にし、どこに置くと意外性のある楽しさが感じられるか考える。 ○段ボールを主材料にして、グループで協力し、大きな意外性のあるものをつくる。 ○考えた場所に、つくった作品を設置し、写真を撮る。 ○もっと意外性を感じたり、楽しさを感じたりする場所がないか探してみる。 ○お互いの作品を鑑賞し、大きくしたものや置く場所の選び方といった、作者の意図や工夫を感じ取る。	身近なものや場所を改めて見つめ、そこから意外性のある楽しい世界を生み出す内容は、美術第2・3学年「A表現(1)イ」における、既成の概念や常識にとらわれず自分の感じ方や考えを広げることなどに関連する。中学生が興味・関心をもつような、機知やユーモアに富んだ世界へと広がっていく要素を含んだ題材である。	<b>教師：</b> 段ボール、段ボールカッター、共同絵の具、粘着テープ、両面テープ、デジタルカメラなど  <b>児童：</b> 水彩用具一式、はさみ など
p.22・23 アレっ？ コレ、ナニ？ ／ 本物そっくりに  (4～6)  造形遊びをする	<b>学習のめあて：</b> 場所との関係を考えながら、意外性のあるものをつくる。  <b>題材の目標：</b> 身近にあるものとそっくりなものを、材料を活用してつくりだし、生活や風景の中に溶け込ませる。	(関)身近にあるものを、本物そっくりにつくることに取り組もうとしている。 (想)そっくりにつくって生活の中に置いておくと面白そうなものを思い付いている。 (技)材料を選び、本物そっくりの形や色、大きさなどのつくり方を工夫している。 (鑑)つくったものを日常の生活場面に置いてみて、友人と見合い、形や色の工夫や面白さなどを感じ取っている。  ◎(関)使う材料や置く場所の特徴を生かしながら、身近にあるものを本物そっくりにつくることを楽しもうとしている。 ◎(技)形のつくり方や、色の塗り方など、これまでの経験を生かしながら効果的な表し方を工夫している。	○教科書を見て、本物そっくりにつくったものの工夫や面白さについて話し合う。 ○校庭や教室などを見たり、生活を振り返ったりして、どのようなものをつくと楽しいか、イメージを膨らませる。 ○どのようなつくり方をすると本物そっくりにつくることのできるのか、材料や方法を考えて表す。 ○でき上がった作品を、各自が考えた場所に置き、友人と表現の工夫や面白さについて話し合う。	身近なものや場所を改めて見つめ、そこから意外性のある楽しい世界を生み出す内容は、美術第2・3学年「A表現(1)イ」における、既成の概念や常識にとらわれず自分の感じ方や考えを広げることなどに関連する。中学生が興味・関心をもつような、機知やユーモアに富んだ世界へと広がっていく要素を含んだ題材である。	<b>教師：</b> 段ボール、紙粘土、粘土べら、粘土板、画用紙 など  <b>児童：</b> 水彩用具一式、紙皿 など

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	【共通事項】 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎は A と評価する例)	主な学習内容		
p.24・25 アニメーションをつくろう ／ パラパラアニメーション  (2～4)  工作に表す	<b>学習のめあて:</b> 動きが連続して見える仕組みを使って、楽しい作品をつくる。  <b>題材の目標:</b> 少しずつ形を変えてかいた絵が、動いて見えるパラパラアニメーションの仕組みを使って、楽しい作品をつくる。	(関)パラパラアニメーションの仕組みに関心を持ち、動きが連続して見える楽しさを味わおうとしている。 (想)パラパラアニメーションの仕組みを使って表したいことを思い付いたり、形や色、ストーリーなどを考えたりしている。 (技)見たことのある面白い動きを表現に取り入れたり、表したいことに合わせて形の変化を工夫したりして表している。 (鑑)友人と作品を見合い、表現した思いや意図、表し方の特徴について話し合い、そのよさを感じ取っている。  ◎(想)実際に動かしてみて、動きや変化などが、さらに楽しいものになるような形や色などの効果を考えている。 ◎(技)自分の表現を見直して、新しいコマを組み入れたり、順番を入れ換えたりするなど、効果的な動きや変化が表れるように工夫している。	○教科書を見てパラパラアニメーションの仕組みを知る。 ○変化する形の始めと終わりを決め、間のコマ数と形の変化を考える。 ○かいたコマの絵を順番に並べて形の変化を確かめる。 ○コマの絵を重ねて端をホチキスでとめ、めくりやすいように紙を両手で持って上下にもむ。 ○パラパラアニメーションを試し、必要であれば新しいコマを加える。 ○つくったアニメーションを友人と見合い、形の変化や表し方のよさについて話し合う。	美術第1学年「A表現(2)ア」における、目的や条件などを基に感性や想像力を働かせて表現の構想を練ることなどにつながる内容である。静止画を連続した動きに見せる基本的な仕組みを知って表すことは、表現の幅を広げ、様々な可能性を引き出すことにもつながっていく。	<b>教師:</b> 画用紙(薄手のもの。5～6cm幅の帯状にして用意しておく)と児童が使いやすい)など  <b>児童:</b> サインペン、鉛筆、色鉛筆、はさみ、ホチキスなど
p.24・25 アニメーションをつくろう ／ ゾートロープでアニメーション  (4～6)  工作に表す	<b>学習のめあて:</b> 動きが連続して見える仕組みを使って、楽しい作品をつくる。  <b>題材の目標:</b> 少しずつ形を変えてかいた絵が、動いて見えるゾートロープの仕組みを使って、楽しい作品をつくる。	(関)ゾートロープの仕組みに関心を持ち、動きが連続して見える楽しさを味わおうとしている。 (想)ゾートロープの仕組みを使って表したいことを思い付いたり、形や色、ストーリーなどを考えたりしている。 (技)見たことのある面白い動きを表現に取り入れたり、表したいことに合わせて形の変化を工夫したりして表している。 (鑑)友人と作品を見合い、表現した思いや意図、表し方の特徴について話し合い、そのよさを感じ取っている。  ◎(想)実際に動かしてみて、動きや変化などが、さらに楽しいものになるような形や色などの効果を考えている。 ◎(技)自分の表現を見直して、新しいコマを組み入れたり、順番を入れ換えたりするなど、効果的な動きや変化が表れるように工夫している。	○教科書を見てゾートロープの仕組みを知る。 ○10～12コマ程度の形が変化する絵を考える。始まりと終わりが同じ形になるように考えると、回転する仕組みを生かしたアニメーションができる。 ○白い画用紙の帯と、切れ目(スリット)の入った黒い画用紙の帯をつくる。 ○白い帯に変化する絵をかく。 ○教科書を参考にしながら各部品を組み立てる。 ○動きを試し、必要であれば絵の帯をつなぎ直したり絵を加えたりする。 ○つくったアニメーションを友人と見合い、形の変化や表し方のよさについて話し合う。	美術第1学年「A表現(2)ア」における、目的や条件などを基に感性や想像力を働かせて表現の構想を練ることなどにつながる内容である。静止画を連続した動きに見せる基本的な仕組みを知って表すことは、表現の幅を広げ、様々な可能性を引き出すことにもつながっていく。	<b>教師・児童:</b> 円形の空き容器、ビー玉、セロハンテープ など  <b>教師:</b> 画用紙、色画用紙(黒)、カッターナイフ、カッターマット、化学接着剤 など  <b>児童:</b> サインペン、色鉛筆、はさみ、のり、コンパス、ホチキス、定規 など

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	〔共通事項〕 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎はAと評価する例)	主な学習内容		
p.24・25 アニメーションをつくらう ／ デジタルカメラでアニメーション  (2～4)  工作に表す	<p><b>学習のめあて:</b> 動きが連続して見える仕組みを使って、楽しい作品をつくる。</p> <p><b>題材の目標:</b> デジタルカメラを使い、少しずつ形や位置などを変えて撮影した材料が、動いて見える楽しいアニメーションをつくる。</p>	<p>(関) デジタルカメラを使ってつくるアニメーションの仕組みに関心を持ち、動きが連続して見える楽しさを味わおうとしている。</p> <p>(想) デジタルカメラによるアニメーションの仕組みを使って表したいことを思い付いたり、形や色、ストーリーなどを考えたりしている。</p> <p>(技) 見たことのある面白い動きを表現に取り入れたり、表したいことに合わせて形の変化を工夫したりして表している。</p> <p>(鑑) 友人と作品を見合い、表現した思いや意図、表し方の特徴について話し合い、そのよさを感じ取っている。</p> <p>◎(想) 実際に動かしてみても、動きや変化などが、さらに楽しいものになるような形や色などの効果を考えている。</p> <p>◎(技) 自分の表現を見直して、新しいコマを組み入れたり、材料の並べ方を変えたりするなど、効果的な動きや変化が表れるように工夫している。</p>	<p>○教科書を見て、デジタルカメラによるアニメーションの仕組みを知る。</p> <p>○材料の並べ方や組合せ方、位置の移動等により、形や動きの変化を15～20コマ程度で表す見通しを立てる。</p> <p>○身近な材料を使い、1場面ごとに少しずつ変化させながら、表したいものをデジタルカメラで撮影していく。</p> <p>○何場面か撮影したら、連続再生し、意図通りの表現かどうか確かめる。</p> <p>○意図通りに動いていれば最後の場面まで撮影を続ける。必要に応じて、不要な場面を消したり、始めからやり直したりする。</p> <p>○つくったアニメーションを友人と見合い、形の変化や表し方のよさについて話し合う。</p>	<p>美術第1学年「A表現(2)ア」における、目的や条件などを基に感性や想像力を働かせて表現の構想を練ることなどにつながる内容である。また、デジタルカメラを用いて静止画像を連続した動きに見せる表現は、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(1)イ」に記載されている映像メディアの活用にも関連する。表現の幅を広げ、様々な可能性を引き出すように活用したい。</p>	<p><b>教師・児童:</b> ビーズ・おはじきなどの身近材 など</p> <p><b>教師:</b> デジタルカメラ、色画用紙 など</p>

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	〔共通事項〕 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎は A と評価する例)	主な学習内容		
p.24・25 アニメーションをつくるう ／ コンピュータでアニメーション (4～6) 工作に表す	<p><b>学習のめあて:</b> 動きが連続して見える仕組みを使って、楽しい作品をつくる。</p> <p><b>題材の目標:</b> コンピュータとデジタルカメラを使い、少しずつ形や位置などを変えて撮影したものが、動いて見える楽しいアニメーションをつくる。</p>	<p>(関) デジタルカメラで写した映像をコンピュータに取り込んでつくるアニメーションの仕組みに関心を持ち、動きが連続して見える楽しさを味わおうとしている。</p> <p>(想) コンピュータとデジタルカメラによるアニメーションの仕組みを使って表したいことを思い付いたり、形や色、ストーリーなどを考えたりしている。</p> <p>(技) 見たことのある面白い動きを表現に取り入れたり、表したいことに合わせて形の変化を工夫したりして表している。</p> <p>(鑑) 友人と作品を見合い、表現した思いや意図、表し方の特徴について話し合い、そのよさを感じ取っている。</p> <p>◎(想) 実際に動かしてみても、動きや変化などが、さらに楽しいものになるような形や色などの効果を考えている。</p> <p>◎(技) 自分の表現を見直して、新しいコマを組み入れたり、ものの位置を変えたりするなど、効果的な動きや変化が表れるように工夫している。</p>	<p>○教科書を見て、コンピュータとデジタルカメラによるアニメーションの仕組みを知る。</p> <p>○キャラクターと、背景、動きなどを考える。</p> <p>○紙粘土などでキャラクターをつくる。</p> <p>○表したい動きに合わせて、場面に必要なキャラクターのポーズや向きをデジタルカメラで撮影し、コンピュータに取り込む。</p> <p>○使いたい背景に、撮影したキャラクターの画像を組み合わせたか、配置を検討したりしてアニメーションに表す。背景も、身近な風景を撮影して使用してもよい。</p> <p>○つくったアニメーションを友人と見合い、形の変化や表し方のよさについて話し合う。</p>	<p>美術第1学年「A表現(2)ア」における、目的や条件などを基に感性や想像力を働かせて表現の構想を練ることなどにつながる内容である。また、コンピュータとデジタルカメラを用いて静止画像を連続した動きに見せる表現は、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(1)イ」に記載されている映像メディアの活用にも関連する。表現の幅を広げ、様々な可能性を引き出すように活用したい。</p>	<p><b>教師:</b> コンピュータ(二人に1台は必要)、画像を合成するグラフィックソフト、アニメーション作成ソフト、デジタルカメラ、色画用紙、紙粘土、粘土板 など</p> <p><b>児童:</b> 水彩用具一式、粘土べら など</p>
p.28・29 線を集めて (4～6) 立体に表す	<p><b>学習のめあて:</b> 細長い材料を組み合わせ、美しいと感じられる形をくふうしてつくる。</p> <p><b>題材の目標:</b> 細長い材料の組合せ方やつなぎ方を試しながら美しいと感じられる形を見つけて立体に表す。</p>	<p>(関) 細長い材料を組み合わせて、美しいと感じられる立体をつくる活動に取り組もうとしている。</p> <p>(想) 細長い材料を組み合わせながら、表したいことを思い付いたり、つくる順序を考えたりしている。</p> <p>(技) 面白い形や美しい形ができるように、材料の組合せ方や接合の仕方を工夫している。</p> <p>(鑑) できた作品について友人と話し合い、それぞれのよさや美しさを感じ取っている。</p> <p>◎(想) 様々な材料がもつ線の感じを生かしながら、全体的な構成の美しさを考えている。</p>	<p>○材料の形や色、長さや曲がり具合などを確かめながら、つくりたい形を考える。</p> <p>○美しい立体になるように、材料の組合せ方や接合の仕方、用具の使い方などを工夫し、組み合わせる順序を考えながらつくる。</p> <p>○形が立ち上がるようにして、いろいろな角度から見ながら美しい形になるようにつくる。</p> <p>○できた作品のよさについて友人と話し合い、美しさを感じ取る。</p>	<p>特に美術第1学年「A表現(1)イ」に記載されている、全体と部分とのバランス、量感、空間性といったことにつながる題材である。「タワーをたてよう」も線材を立体に立ち上げる活動であるが、ここでは材料のもつ直線・曲線を生かした表現を考えることが必要となる。</p>	<p><b>教師・児童:</b> 枝、ひも、モール など</p> <p><b>教師:</b> プラスチック段ボール、バルサ丸棒、和紙、アルミ針金、輪ゴム、カッターナイフ、カッターマット、ペンチ、木工用接着剤 など</p> <p><b>児童:</b> はさみ など</p>

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	【共通事項】 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎はAと評価する例)	主な学習内容		
p.30 想ぞうのつばさを広げて (6～8) 絵に表す	<p><b>学習のめあて:</b> 自分が感じたふん囲気が伝わるように、心をひかれた物語の場面を絵に表す。</p> <p><b>題材の目標:</b> 物語の中で、心をひかれた場面の様子や登場人物の気持ち、雰囲気などがよく表れるように、構図や色の使い方を工夫して絵に表す。</p>	<p>(関)心をひかれた場面を絵に表すことに取り組もうとしている。 (想)心をひかれた場面の場所の様子や、登場人物の気持ちなどを想像し、どのように表そうか考えている。 (技)場面の様子や雰囲気が表れるように、画面の組立てや色などを工夫している。 (鑑)友人と絵を見せ合い、想像した場面の様子や雰囲気をどのように工夫して表したか感じ取っている。</p> <p>◎(想)アイデアスケッチをしながら、自分がとらえた雰囲気に合った形や色を考えている。 ◎(技)自分がとらえた雰囲気に合うように、様々な画面の組立て方や描画材の扱い方を考え、工夫して表している。</p>	<p>○好きな物語を選んで読んでおく。 ○心をひかれた場面をいくつか選び、アイデアスケッチをするなどして、かく場面を決める。 ○想像した場面の雰囲気が伝わるように、ものの大きさや色の感じ、配置などを考えて表す。 ○描画材の使い方を工夫しながら着色する。 ○友人と絵を見せ合って、自分がとらえた雰囲気をどのように表したのか、話し合う。</p>	<p>自分が感じた物語の雰囲気を表す内容は、特に美術第2・3学年「A表現(1)イ」における、構想を練ることで主題を深めたり、創造的な構成を工夫したりすることに関連する。場面を選び、画面の組立て方や形や色を考える中で、何を表したいのかを自分の中で確認するということを大切にしていきたい。</p>	<p><b>教師:</b>画用紙、色画用紙 など</p> <p><b>児童:</b>水彩用具一式 など</p>
p.31 不思議な絵 (2～6) 鑑賞する	<p><b>学習のめあて:</b> 不思議に見える表現があることに気がつき、そのおもしろさを味わう。</p> <p><b>題材の目標:</b> 不思議に見える絵の理由を考えながら、表し方の面白さなどを味わう。</p>	<p>(関)不思議に見える絵の面白さを味わおうとしている。 (想)不思議に見える表し方を理解し、どのような工夫があるか考えている。 (技)どのようにしたら不思議に見えるのか、自分でもかきながら工夫している。 (鑑)不思議に見える作品について話し合い、表し方の特徴などをとらえている。</p> <p>◎(関)不思議に見える絵の面白さを味わい、その工夫を楽しもうとしている。 ◎(鑑)不思議に見える表し方を調べて友人と紹介し合い、それぞれのよさや表し方の特徴などをとらえている。</p>	<p>○教科書の参考作品を見て、不思議さを味わう。 ○不思議に見える理由を自分なりに考えたり、友人と話し合ったりする。 ○不思議に見える作品にはいろいろな表し方があることを知る。 ○教科書以外にはどのような不思議な作品があるかを調べ、その表し方の違いを話し合う。 ○不思議に見える表し方を生かして、表現してみる。</p>	<p>不思議に見える作品の鑑賞は、特に美術第1学年「B鑑賞(1)ア」における、造形的なよさや美しさ、作者の表現の工夫などを感じ取るという内容に結び付く。また形や色彩のトリックを生かした不思議な世界は中学生にも関心の高い内容であり、表現活動においては、第2・3学年「A表現(1)イ」などに関連する。</p>	<p><b>教師:</b>錯視を利用した美術作品などの参考資料、画用紙 など</p> <p><b>児童:</b>サインペン、水彩用具一式 など</p>

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	〔共通事項〕 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎は A と評価する例)	主な学習内容		
p.32・33 使って楽しい焼き物を (2～6) 工作に表す	<p><b>学習のめあて:</b> 焼き物をつくる方法について知り、目的に合わせた焼き物づくりをする。</p> <p><b>題材の目標:</b> 焼き物の成形と焼成について知り、自分で使ってみたい焼き物を、目的に合わせた方法でつくる。</p>	<p>(関)焼き物は、使う目的によって異なるつくり方があることを知り、自分で使ったり家に置いておきたいと思ったりする焼き物をつくることに、取り組もうとしている。</p> <p>(想)つくるものの用途を考え、つくりたい形を思い付いている。</p> <p>(技)自分のつくりたい形に近付くように、ひもづくりや手びねりなど、成形方法を工夫している。</p> <p>(鑑)作品の形や色、感触、持ちやすさや使いやすさなどについて話し合い、焼き物のよさや美しさなどを感じ取っている。</p> <p>◎(関)使う場面を想像し、使う人の好み、使いやすさなどを考えて、生活を楽しくする焼き物を工夫してつくることに取り組もうとしている。</p> <p>◎(技)ひもづくりや手びねりなどの成形方法に慣れ、自分のつくりたい形の特徴がよく表れるように、つくり方を工夫している。</p>	<p>○自宅や様々な場所で焼き物を見たり、使ったりした経験を話し合う。</p> <p>○使ったり、飾ったりするなどの目的に合わせた成形の方法を考えて取り組む。</p> <p>○つくったものが十分に乾燥してから焼き窯で素焼きする。</p> <p>○目的によって絵付け、施釉、本焼きをする。</p> <p>○作品について、工夫した点や使いやすさ、よさなどを話し合う。</p>	<p>実際に使用する焼き物をつくる内容は、特に美術第1学年「A表現(2)ウ」に示されている用途や機能、使用する者の気持ちを考えて表現の構想を練るといった内容につながるものである。また小学校における焼成の体験は、中学校美術で焼成に関する活動を行う際、「A表現(3)イ」にあるような、制作の順序を考え見通しをもって表現することにも結び付く。</p>	<p><b>教師・児童:</b> 雑巾 など</p> <p><b>教師:</b> 土粘土、粘土板、切り糸、たたら板、のし棒、手回しろくろ、下絵の具、釉薬 など</p> <p><b>児童:</b> 粘土べら、古いタオル など</p>
p.34・35 刷り重ねて表そう/ 一ぱん多色木はんで (4～6) 絵に表す	<p><b>学習のめあて:</b> ほったり刷ったりしながら、線や色の調子や重なりをたしかめて、多色木はんに表す。</p> <p><b>題材の目標:</b> 一版多色木版の特色を生かし、刷るごとに変化する過程を楽しみながら、版による表現のよさを味わう。</p>	<p>(関)表し方を理解し、一版多色木版に表すことに取り組もうとしている。</p> <p>(想)一版多色木版の表し方の特徴から、表したいことを見付けたり、表し方の順序を考えたりしている。</p> <p>(技)自分の表したいことに合うように、彫る線の太さや絵の具の濃さなどを工夫している。</p> <p>(鑑)作品を見せ合いながら、表したかったことなどについて話し合い、表し方の特徴や一版多色木版に表すよさを感じ取っている。</p> <p>◎(技)表したいことに合わせて、構図や配色、色を付けて刷る順序などを工夫して表している。</p> <p>◎(鑑)作品を見せ合いながら、彫りや刷りの効果を生かした表現のよさをとらえている。</p>	<p>○一版多色木版の表し方について、教科書を参考にして理解する。</p> <p>○自分の表したい場面を決め、版木に下絵をかいて、主に線彫りで彫る。</p> <p>○色画用紙の色の濃さと絵の具の色の濃さを確かめながら刷る。</p> <p>○できた作品を友人と見せ合う。</p>	<p>美術第1学年「表現(1)イ」に示されている、効果的な構成・構図や配色などの創造的な画面づくりといった内容などに関連する。また版画は特に制作の順序や見通しによって大きく作品の効果が変わるものであり、小学校での版に表す経験は、中学校美術における「A表現(3)イ」にも深くかかわるものである。</p>	<p><b>教師・児童:</b> 新聞紙 など</p> <p><b>教師:</b> 版木、刷り紙(主に黒の色画用紙)、版画用具一式 など</p> <p><b>児童:</b> 彫刻刀、水彩用具一式 など</p>

5・6上 題材別カリキュラム

ページ 題材名 (配当時間) 項目	〔共通事項〕 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。			中学校への接続 (高学年のみ設定)	材料や用具
	学習のめあて 題材の目標	題材の評価規準の例 (◎はAと評価する例)	主な学習内容		
p.34・35 刷り重ねて 表そう／ ほり進み木 はんで  (6～8)  絵に表す	<b>学習のめあて:</b> ほったり刷ったりしながら、線や色の調子や重なりをたしかめて、多色木はんに表す。  <b>題材の目標:</b> 彫る、刷るを繰り返して表す彫り進み木版の方法の特色を生かし、版による表現の楽しさやよさを味わう。	(関) 表し方を理解し、彫り進み木版に表すことに取り組もうとしている。 (想) 彫り進み木版の表し方の特徴から、表したいことを見付けたり、表し方の順序を考えたりしている。 (技) 自分の表したいことに合うように、配色の計画を立て、工夫して表している。 (鑑) 作品を見せ合いながら、表したかったことなどについて話し合い、表し方の特徴や彫り進み木版に表すよさを感じ取っている。  ◎(技) 表したいことに合わせて、構図や配色、色を付けて刷る順序などを工夫して表している。 ◎(鑑) 作品を見せ合いながら、彫りや刷りの効果を生かした表現のよさをとらえている。	○ 彫り進み木版の表し方について、教科書を参考にして、特徴や製作手順を理解する。 ○ 自分の表したいことや場面を構想する。 ○ 版木に下絵をかき、配色の計画を立てる。 ○ 彫りや刷りの効果を確認め表現を工夫しながら製作していく。 ○ できた作品を友人と見せ合う。	美術第1学年「A表現(1)イ」に示されている、効果的な構成・構図や配色などの創造的な画面づくりといった内容などに関連する。また版画は特に制作の順序や見通しによって大きく作品の効果が変わるものであり、小学校での版に表す経験は、中学校美術における「A表現(3)イ」にも深くかかわるものである。	<b>教師・児童:</b> 新聞紙、雑巾 など  <b>教師:</b> 版木、版画用紙、版画用具一式 など  <b>児童:</b> 彫刻刀 など
p.36・37 アート・レポ ーターにな って  (1～6)  鑑賞する	<b>学習のめあて:</b> 作品をよく見て表された内容を読み取り、自分の考えを文章にまとめる。  <b>題材の目標:</b> 美術作品について、表されていることや、作者の表現の意図などを考え、人に伝えるための文章にまとめる。	(関) 美術作品を見て、自分が感じた内容を伝えるための文章にまとめることを、楽しもうとしている。 (鑑) 美術作品をよく見て、紹介する文章にまとめながら、作品の全体の印象や細かい部分の特徴などをとらえている。  ◎(関) 美術作品を見て、自分が読み取ったり考えたりした内容を、人に伝えるための文章にまとめることを、楽しもうとしている。 ◎(鑑) 美術作品をよく見て、紹介する文章にまとめながら、作品に表された形や色のよさや面白さ、動きや奥行きの感じなどを複数の視点から感じ取っている。	○ 感じたこと、見たこと、考えたことなどを言葉に表すことを意識して、美術作品を鑑賞する。 ○ 作品から受けた印象を文章にまとめて発表し合う。 ○ 友人の印象と自分の受けた印象との共通点や違いについて知る。  * 表現活動への発展例 ○ 美術作品をよく見て、ものの重なりや奥行きを考えて、画用紙や段ボールなどを主材料に、立体に表す。	美術作品から自分が読み取ったことを文章にまとめて伝えるという内容は、美術第1学年「B鑑賞(1)」などにつながる。中学校美術における鑑賞の学習では、言葉で考え、その考えを整理し説明し合う活動を通して見方や感じ方を広げると示されている。小学校からの言葉を大切にしながら鑑賞活動の積み重ねが大切である。	<b>教師:</b> 美術作品の複製画、画用紙、段ボール、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤 など  <b>児童:</b> 自宅にある美術作品のカレンダーや絵はがき、水彩用具一式、はさみ など

5・6上 題材別カリキュラム

授業題材以外のページ

ページ 題材名	掲載内容	ページの活用方法
p.2・3 心を通わせて	<p>オリエンテーションは、この学年の児童が図画工作の活動の中で育んでほしい力について示している。</p> <p>人と人は、造形物を通して心を通わせることもできる。「心を通わせて」には、心を込めて作品をつくること、また作品に込められた思いを想像して、見たり使ったりすることによって生まれる心の交流を大切にしてほしいという願いを込めている。心が受け継がれている造形物のよさや美しさを感じ取るよう、伝統工芸品とそれを生み出す人の姿を掲載している。</p>	<p>学年の最初や関連した題材で適宜扱うものとする。</p>
p.4・5 形や色を楽しもう	<p>生活の中で目にする野菜や果物、衣服や建物、風景などの形や色のよさや面白さ、美しさに気付き、そこから得たイメージを表現や鑑賞の活動に生かすことができるようにした。</p> <p>形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴に関して、日本に古くから伝わる豊かな色、暮らしの中の形や色から感じるリズムについて掲載している。</p>	<p>形や色のオリエンテーションとして、関連した題材で適宜扱うものとする。</p>
p.26・27 図画工作の広がり	<p>自分たちの作品を多くの人に鑑賞してもらい、美術館に展示されている作家の作品を友人たちと鑑賞するなど、図画工作や美術の活動を通して人と交流し、コミュニケーションの輪が広がっていく様子を紹介している。</p> <p>図画工作で製作した作品を、校内や地域の商店街、野外の会場などを利用して展示している様子、町の人たちや校内の児童などと話し合いながら鑑賞している場面を掲載している。</p>	<p>関連した題材で適宜扱うものとする。</p>
p.38・39 ぞうけいずかん くらしの形、世界の家	<p>児童が、図版をじっと見ながら自由に様々なイメージをもつことで発想や構想を広げ、想像する楽しさを体験し、表現への意欲をもてるように設定した。</p> <p>世界の様々な地域の住居を見ることで、使われている材料、形や色の特徴などに気付き、家の機能の共通性や地域の気候との関係による違いなどについて、興味をもてるように構成している。</p>	<p>関連した題材で適宜扱うものとする。</p>
p.40～43 使ってみよう 材料と用具	<p>自分のイメージを表すため、材料や用具の扱いについて知り、扱い方を身に付けられるように設定した。学習指導要領で示された材料や用具を中心に掲載している。</p> <p>粘土の成形と焼成、電動糸のこぎりについて、ペンチの使い方、接着剤適合表、コンピュータについてなどを掲載している。</p>	<p>関連した題材で適宜扱うものとする。</p>
裏表紙 図画工作でコミュニケーション	<p>形や色、イメージ、言葉によるコミュニケーションの広がりを紹介している。</p> <p>作品を介した英語による交流を掲載している。</p>	<p>他教科等や道徳の時間などとも関連させ、必要に応じて適宜扱うものとする。</p>